

令和6年度事業報告

自 令和 6 年 4 月 1 日

至 令和 7 年 3 月 3 1 日

I 事業の状況

1 概 況

令和6年度は、指定管理者として、あづま総合運動公園、福島空港公園及び逢瀬公園・福島県総合緑化センターについては第5期の、福島市民家園については第4期のそれぞれ初年度の管理運営に当たり、利用者に快適かつ安全な施設を提供するため、定期的な巡回や点検など、施設の適切な維持管理や緑化の推進に努めた。

また、事業の実施に当たっては、利用者ニーズを捉えながら、公園での健康づくりのための各種事業の展開に取り組んだ。

あづま総合運動公園では、スポーツの普及・指導事業としては、誰もが参加できる「歩こう秋のふくしまあづまの郷ウォーク2024」、「あづま荒川クロスカントリー大会」、「あづま夕焼けパークマラソン」等を開催するとともに、子どもを対象とした水泳、球技等の各種スポーツ教室、一般の方を対象とした公園健康づくり教室、テニス大会等を開催した。

このほか、体育館では平日昼間の利用促進を目的とした平日割サービス、トレーニング室では月会員サービス等に引き続き取り組んだ。庭球場では、涼しい時間帯での「夏季週末早朝営業」や21時までの「夜間営業」を実施したほか、とうほう・みんなのスタジアムでは、照明設備を利用して「プロとプレーしよう！ナイトサッカー教室」を開催した。

レクリエーション事業としては、「あづまT e s h i — g o t 市場」、「来てみて乗ってサイクルスポーツ広場」、「イチョウ並木のにぎわい創出事業」等のイベントを実施したほか、「みどりの学び場」等の教室・講座を開催し、県民の生涯学習の場の提供に取り組んだ。

都市公園等に関する事業としては、今年度新たに「誰もが一緒に遊べるインクルーシブ公園って何？」をテーマにみんなの公園づくりセミナーを開催し、公園を活用した地域課題解決への取組例を通じて公園関係者や県民とともに学ぶ機会を創出した。

福島空港公園では、新規事業として「空港公園桜まつり」を開催するとともに福島空港事務所と共同で「YOSAKOI 祭り 2024」を実施したほか、「第18回福島空港公園杯グラウンドゴルフ大会」、「第18回福島空港公園杯少年フットサル大会」等のスポーツ大会や、健康づくり事業として「ノルディックウォーキングで健康になろう」、「空港公園でヨガ」等を実施した。

また「第17回空のみちウォーク2024」、「第11回福島空港公園 handmademarket ソライチ」等の大規模イベントを開催した。個人参加型のイベントや各種体験会では、子

ども向け環境学習「みどりの楽校」、公園の花木を活かした「桜を観る会」や「空港公園で農体験」等を開催した。

逢瀬公園・福島県総合緑化センターでは、「逢瀬公園春まつり」を地元の商工会と共同で開催するとともに、地域関係団体との連携により「逢瀬公園こどもまつり」、「逢瀬公園感謝祭・秋」等を実施した。また、今年度立ち上げた「公園で自然環境を学ぶ教室・体験会」と「サボテン園ガイドツアー」では、「公園ナイトウォーク体験」、「森林整備体験会」の2つの体験会や、サボテン栽培のアドバイス、サボテン園の魅力を伝えるための説明会等を実施した。

福島市民家園では、計画どおり、季節ごとの年中行事・体験行事、春まつり、夜の民家園、ふれあいまつりを開催したほか、福島市小鳥の森と協働で「野鳥の声を楽しもう」や、縁側の山野草展・即売会等を開催した。

緑の普及指導・緑化の推進事業では、自治体からの依頼に基づく樹木等に関わる調査を実施するとともに、「みどりの相談所」等を設置し各種相談に対応した。

また、公園資源を活用し「あづま香りのバラ園まつり」、「サクラ、イチョウ等の四季のライトアップ」、「公園の落ち葉プール」等のイベントを開催した。

大規模イベントへの貸出事業では、プロ野球や福島県最大級の音楽フェス「L I V E A Z U M A 2024」等において、駐車場混雑の未然防止やシャトルバス運行要領等の事前調整に努めた。

他に、あづま総合運動公園では、水素燃料電池システムの保安全管理・PR事業を受託し、施設の維持管理及びPR事業に取り組んでいる。

＊ 以下、「あづま総合運動公園」を「あづま」、「福島空港公園」を「空港」、「逢瀬公園」を「逢瀬」、「福島県総合緑化センター」を「センター」、「福島市民家園」を「民家園」という。

Ⅱ 事業概要

1 スポーツ・レクリエーションの普及指導及び体力の増進に関する事業【公益目的事業】

(1) スポーツの普及指導事業

1) スポーツ教室

「小学生初心者水泳教室」や「ワンポイント水泳教室」、「親子で楽しむからだあそび」、「季節を感じるウォーキング教室」等のスポーツ教室を開催し、県民の運動意欲の高揚に資するとともに、公園施設利用者の増加に努めた。

なお、一部の講座は、仕事帰りに参加できるよう夜間の開催とした。

場 所	事 業 名	対 象	実施日	回 数	延べ参加者数
あづま	ワンポイント水泳教室	プール利用者	4～6月 10～3月	全34回	285名
	季節を楽しんで歩こう	一般	4～9月	全5回	117名
	親子で水泳を楽しもう	幼児・親	8/31	1回	16名【8組】
	小学生初心者水泳教室	小学生	6～3月	6日×3期	410名
	小学生一輪車教室	小学生	6/29	1回	12名
	公園健康づくり教室	一般	5～3月	全6期	273名
	プロとプレーしよう！ ナイトサッカー教室	小学生	7～9月	全4回	113名
	ソフトテニスボトム アップクリニック	小・中学生	未定	全1回	中止
	公園ウォーキング教室	一般	10～12月	全3回	56名
空 港	ノルディックウォーキングで健康になろう	一般	4月～3月	全24回	485名
	空港公園でヨーガ	一般	4/8、6/10、 8/5、10/7	4回	67名
逢 瀬、 センター	ノルディックウォーキング体験会	一般	4月～3月	全5回	8名

2) スポーツ大会

チーム対抗テニス大会や小学生バレーボール大会を主催するとともに、ウォーキング大会、サッカーフェスティバル等を各種スポーツ団体と共催し、県民のスポーツ参加の促進に努めた。

場 所	事 業 名	対 象	実施日	延べ参加選手数
あづま	第 13 回あづま総合運動公園チーム対抗テニス大会（人工芝完成記念大会）	一般	5/3	124 名
	第 15 回あづま総合運動公園杯県北マスターズテニス大会	一般	6/12	87 名
	第 17 回あづまカップパークゴルフ大会	一般	10/3	95 名
	第 27 回 Me&You サッカーフェスティバル	小学生	7/27～28	730 名
	第 40 回全国小学生陸上競技交流大会福島県選考会	小学生	7/6	910 名
	第 20 回西方部親善木球大会兼第 14 回あづま杯木球大会	一般	9/7	29 名
	第 28 回ミニバスケットボールチビっ子フェスティバル	小学生 低学年	9/7～8	520 名
	あづま夕焼けパークマラソン 2024	一般	9/7	697 名
	歩こう秋のふくしまあづまの郷ウォーク 2024	一般	11/3	1,235 名
	うつくしまふくしま第 47 回福島県小学生バレーボール選手権大会	小学生	11/16～17	598 名
	第 25 回あづま荒川クロスカントリー大会	小学生～ 一般	12/15	931 名
	第 47 回総合運動公園庭球場オープン記念ダブルステニス大会	小学生、中 学生、一般	10/13～14	58 名
空 港	第 18 回福島空港公園杯少年フットサル大会	小学生	10/26, 27	600 名
	須賀川市大東地区球技大会（グラウンド・ゴルフの部）	一般	6/19	100 名
	第 18 回福島空港公園杯グラウンド・ゴルフ大会	一般	10/25	274 名

場 所	事 業 名	対 象	実施日	延べ参加 選手数
空 港	第 15 回福島空港公園杯 8 人制ジュニアサッカーフェスティバル	小学生	6/8, 9	600 名
	福島空港公園 秋季選抜 ジュニアシングルステニス大会	中学生 高校生	10/12, 13	96 名
逢 瀬、 センター	第 15 回ノルディック ウォーキング大会 in 郡山 2024	一般	5/26	86 名

3) ニュースポーツ普及指導事業

器具貸出し

園内でのニュースポーツ活動、地域住民への器具貸出しを実施した。

(あづま 貸出件数 延べ 14 件)

4) 他団体連携によるスポーツ普及指導事業

NPO法人、各種競技団体等と協働でシニアスポーツ相談及びウォーキング大会等を開催し、県民の健康増進に努めた。

場 所	事 業 名	内 容
あづま	スポーツ教室	公園カルチャー・公園健康づくり教室を協働で開催するとともに、ポルドブラ 3 回 47 名 (4/4 (27)、5/16 (11)、6/6 (9))、ピルビスワーク 3 回 51 名 (4/1 (17)、4/15 (17)、5/20 (17)) を開催した。
	シニアスポーツ相談室の運営	シニア世代の健康増進の一助として、スポーツ・レクリエーション活動に関する情報を継続提供。相談件数 (97 件)
	クライミングウォールの講習会開催補助及び体験会	県山岳・スポーツクライミング連盟と連携しスポーツクライミングの普及に努めた。 講習会は体験会 5/25、9/23 (参加者 85 名)
	歩こう秋のふくしまあづまの郷ウォーク 2024	福島県ウォーキング協会や福島西地区行政区等と協働で開催した。11/3 (参加者 約 1,235 名)
空 港	第 17 回空のみちウォーク 2024	地域の団体と協働で空港公園や空港周辺を歩くウォーク大会を開催した。(参加者 約 650 名)

5) 職員が有する能力及び資格を活用したスポーツ普及指導事業

公園資源や職員の持つ資格や技術を活用し、県民の健康づくりに寄与する事業を実施した。また、競技力向上に寄与した。

- ① 水泳指導（小学生初心者水泳教室、ワンポイント水泳教室、水連合宿）
- ② アーチェリー指導（合宿）

6) とうほう・みんなのスタジアムをホームとするプロスポーツへの支援事業（あづま）

とうほう・みんなのスタジアムをホームとする福島ユナイテッドFCに対し、パートナー契約に基づき、チームの支援を行った。

7) その他のスポーツ普及指導事業

「スポーツを楽しんで食事券をGETしよう」

トレーニング室と室内プールの利用者の継続利用を促し健康づくりに寄与するため、ポイントカードを作成し、貯まったポイントで体育館レストラン又は福島市民家園カフェむろいしで利用できる 900 円食事券と交換できるサービスを実施した。（期間：12/1～3/31(161 件交換)）

(2) レクリエーションの普及指導事業

1) レクリエーション事業

公園のみどりの豊かさや楽しさを知っていただくため「公園の落ち葉プール」をはじめ、各公園において体験型イベントを実施した。また、県民の生涯学習の場として、各種手づくり講座等を開催した。

場 所	事 業 名	内 容
あづま、空港、逢瀬、センター、民家園	公園フォトコンテスト	公園で見つけた、とっておきの風景や感動、驚きの様子を捉えた瞬間など、見た人が改めて公園の魅力に気づかされるような写真を募るフォトコンテストを実施。 第 16 回の入賞作品を展示(あづま、福島県庁、センター、空港、コラッセ福島)した。 第 17 回は、応募数 244 点 (85 名) を対象に審査、入賞者への表彰、体育館ホールへの展示を実施した。
あづま	みどりの学び場	公園の特色を活かし、季節感のあるみどりに触れて学ぶプログラムで講座を開催全 6 回 (5/19 (13 名)、6/5 (20 名)、6/20 (19 名)、7/1 (15 名)、12/20 (15 名)、3/7 (26 名) 計 108 名)

場 所	事 業 名	内 容
あづま	子どもみどりの遊び場	子ども向けのみどりをテーマとした講座を開催した。全4回(5/12(7名)、7/15(10名)、11/10(11組)、1/26(6名)計34名)
	公園の落ち葉プール	子供たちに身近な自然との触れ合いの場を提供するとともに、落ち葉の有効利用を目的とし、体育館入り口付近に落ち葉プールを設置。10/25～11/4まで。利用者319名 オープニングイベントへの報道各社(民報、民友、NHK、FTV、FCT)の取材。
	公園カルチャー教室	講師(講座)を募集し、年6期開催。(参加者230名)。
	親子で学ぼう防災教室	協働先と日程調整不調により実施なし。
	ボランティアとの協働による公園づくり	公園ボランティアの人材育成を目的に、緑地管理の知識や技術指導を行った。また、企業団体の社会貢献活動の場となる機会を提供。みどりのボランティア(13回、参加者130名)、みどりのサポーター(10回、参加者88名)、うつくしま園芸福祉の会(9回、参加者57名)、企業ボランティア等(1回、参加者9名)。
	あづまバラ愛好会の活動	ローズコンシェルジュとともに、バラ園を学ぶ場として活用し、技術指導などを行っている。班活動、自主活動を含め開催。(59回、参加者1,366名)
空 港	とんぼ玉づくりを楽しむ	21世紀建設館を会場にトンボ玉を作った。(参加者14名)
	門松づくり体験	21世紀建設館を会場に、門松づくり体験を開催。1回(参加者18名)
	花とみどりの教室	バラやハーブの育て方や楽しみ方、季節の寄せ植えをテーマに各教室を開催。9回(参加者240名)
	空港公園自然塾	木の枝クラフト、藍染などを実施。全6回(参加者38名)
	空港公園で農体験～野菜づくりを楽しむ～	みんなの野菜畑(植え付け、芋掘り)を開催。2回(参加者60名)

場 所	事 業 名	内 容
空 港	桜を観る会	公園の代表的な花木であるサクラを鑑賞し専門知識の提供や植栽エリアの魅力を提供する。 (参加者 6 名)
逢 瀬、 センター	みどりの総合講座	庭の手入れ教室や薬草教室、アジサイ飾りやクリスマス飾りづくりなどの「みどり」に関する体験教室を開催。全 13 回 (参加者 128 名)。
	公園で楽しむカルチャー教室	一閑張りやぬいぐるみ作りなどのカルチャー教室を開催。全 4 回 (参加者 41 名)。
	国蝶オオムラサキ・甲虫観察舎の開設	国蝶オオムラサキとカブトムシなどの昆虫の観察舎を設置し、子どもたちの利用促進に努めた。6 月～8 月、入場者数 6,818 名。
	公園で自然環境を学ぶ教室・体験会 (新規)	もりの案内人の会県中支部と連携し、公園ナイトウオーク等を行った。全 2 回 (参加者数 11 名)。

2) 他団体連携によるレクリエーション普及指導事業

地域の公園として関係団体などと連携しながら、「ボランティアとの協働による公園づくり」、「各種体験会」、「民家園ふれあいまつり」などの事業を開催し、公園利用者数の増加に努めた。

場 所	事 業 名	内 容
あづま	ボランティアとの協働による公園づくり (再掲)	公園ボランティアの人材育成を目的に、緑地管理の知識や技術指導を行った。また、企業団体の社会貢献活動の場となる機会を提供。 みどりのボランティア (13 回、参加者 130 名)、みどりのサポーター (10 回、参加者 88 名)、うつくしま園芸福祉の会 (9 回、参加者 57 名)、企業ボランティア等 (1 回、参加者 9 名)。
	第 20 回西方部親善木球大会 兼第 14 回あづま杯木球大会 (再掲)	福島市西地区体育振興協議会と共催で初心者でも参加できる木球のオープン大会を開催した。9/7 参加者 29 名

場 所	事 業 名	内 容
あづま	第 13 回あづま Teshi-got 市場	手づくり品を通じた交流を目的にイベントを開催した。10/26～27、来園者数 22, 000 名。
	歩こう秋のふくしまあづまの郷ウォーク大会 2024（再掲）	福島県ウォーキング協会や福島西地区行政区等と協働で開催した。11/3、参加者 1, 235 名
	親子で学ぼう！防災教室(再掲)	協働先と日程調整不調により実施なし。
空 港	第 17 回空のみちウォーク 2024（再掲）	地域の団体と協働で空港公園や空港周辺を歩くウォーク大会を開催した。（参加者 約 650 名）
	ノルディックウォーキングで健康になろう（再掲）	空港公園の 3 エリアを活用し、ノルディックウォーキング体験会を開催。全 24 回（18 回、参加者 310 名）
	空港公園でヨーガ（再掲）	緑のスポーツエリアの天然芝を活用したヨーガの体験会を開催。4 回（参加者 67 名）
	第 11 回福島空港公園 handmademarket「ソライチ」	6/1, 2 の 2 日間、延べ 300 店舗もの手作り品を扱うお店等が出店し、約 35, 000 名の集客を得た。
	第 3 回ノルディックウォーキング空港公園大会	福島県ノルディックウォーキング協会の協力を得て、エアフロントエリアから野外活動エリアのコースを楽しんだ。（参加者 70 名）
	YOSAKOI 祭り 2024	福島空港の空港まつりと共同で 5/12 と 9/21 に開催し、ヨサコイ演舞やコンサート、キッチンカー等で賑わい公園の周知を図った（参加者約 4, 800 名）

場 所	事 業 名	内 容
空 港	空港公園で農体験～野菜づくりを楽しむ～（再掲）	みんなの野菜畑（植え付け、芋ほり）を開催。2回、（参加者 60 名）
	空港公園桜まつり	桜の開花時期に合わせ、地域交流の場として開催。キッチンカーなど 80 店舗の出店などで公園の周知を図った。（参加者 3,900 名）
	スポーツターフで遊ぼう	多目的広場の天然芝の上でスポーツ鬼ごっこを開催し、子どもたちが元気よく駆け回った。（参加者 52 名）
逢 瀬、 センター	公園で自然環境を学ぶ教室・体験会（再掲）	もりの案内人の会県中支部と連携し、公園ナイトウォーク等を行った。全 2 回（参加者数 11 名）。
	逢瀬公園感謝祭・秋	地元の逢瀬の風実行委員会との共催によって開催。10/20（参加者 3,150 人）
民家園	野鳥の声を楽しもう	バードウォッチングや野鳥の説明等を福島市小鳥の森と協働で開催。5/3（参加者 40 名）
	縁側の山野草展・即売会	猪苗代山野草会による展示、福島植物園による即売会を行った。（参加者 929 名）
	春まつり	地元産寒ざらしそばの提供、ワークショップ、市民団体と協働で開催。4/7（参加者 1,413 名）
	夜の民家園	地元産そばの提供、竹灯籠のライトアップ、市民団体と協働で開催。7/20（参加者 1,269 名）
	民家園ふれあいまつり	地元産新そばの提供、劇団公演、ワークショップ、市民団体と協働で開催。11/4（参加者 2,284 名）

3) 地域連携によるレクリエーション普及指導事業

地元中学生の職場体験「中学生ドリームアップ事業」の受け入れを再開した。また、自治会や商工会等の団体と協働する「緑と花のあふれるまちづくり連携事業」等様々なイベントを開催した。

場 所	事 業 名	内 容
あづま	「中学ドリームアップ事業(職場体験活動)」の生徒受け入れ(市内各中学校)	吾妻中 5 名 (6/24、6/26～28) 岳陽中 5 名 (8/26、8/28～30) を受け入れた。
	緑と花のあふれるまちづくり連携事業	福島商工会議所女性会と協力し花苗の栽培や、園内の花壇整備を行った。(3 回、参加者 34 名)
	ボランティアとの協働による公園づくり(再掲)	公園ボランティアの人材育成を目的に、緑地管理の知識や技術指導を行った。また、企業団体の社会貢献活動の場となる機会を提供。みどりのボランティア(13 回、参加者 130 名)、みどりのサポーター(10 回、参加者 88 名)、うつくしま園芸福祉の会(9 回、参加者 57 名)、企業ボランティア等(1 回、参加者 9 名)。
	あづまバラ愛好会の活動(再掲)	ローズコンシェルジュとともに、バラ園を学ぶ場として活用し、技術指導などを行っている。班活動、自主活動を含め開催。(59 回、参加者 1,366 名)
	あづま絵本ぶんこの活用	幼児体育室脇ラウンジに、寄贈絵本を自由に楽しむことのできるコーナーとして「あづま絵本ぶんこ」を設け、空きスペースの活用を図った。また、絵本の管理(受入、修繕等)を実施した。
空 港	YOSAKOI 祭り 2024(再掲)	福島空港の空港まつりと共同で 5/12 と 9/21 に開催し、ヨサコイ演舞やコンサート、キッチンカー等で賑わい公園の周知を図った(参加者約 4,800 名)
	花のおもてなし	市民が参加して栽培した花苗で地域環境の美化活動や地域おこしを行うことを目的に、4 月から 10 月まで 8 回延 84 名が参加し、4,000 ポットの花苗を地域に寄贈。

場 所	事 業 名	内 容
逢 瀬、 センター	逢瀬公園春まつりの開催	逢瀬町商工会、片平町商工会との実行委員会を組織して4/7開催。参加者数（5,378人）。

4) サイクルスポーツ広場事業

変わり種自転車や一輪車、バッテリーカーやそり（無料）の貸出を行った。家族のふれあいの機会や子どもたちの健康増進のため、5月5日イベントを実施（下表）や、スポーツ教室参加者のうちファミたんカード提示者への無料クーポン配布など、利用促進を図った。

利用者数は、延べ240,891名・対前年比99.4%、有料自転車等利用者数は166,396名・同99.3%、バッテリーカー利用者数22,307名・同103.0%となった。

事 業 名	内 容
来てみて乗って サイクル スポーツ広場	5月5日（日祝）に来場者のうち高校生以下にクーポン券（5枚綴り。6～9月利用可）を配布した（784名）。そのほか、ミニ新幹線（463名）、パラスポーツ体験として車いすバスケット（47名）、BMX（148名（うち子ども106名））の参加があった。当日の利用者数は、計4,425名（延べ）。

（3）体力の増進事業

「公園で健康になろう」をテーマとして、子どもたちの遊び、運動の場の提供とともに、体育館トレーニング室、室内プール、陸上競技場トレーニング室における月会員制の継続実施により、施設利用の促進に努めた。

場 所	事 業 名	内 容
あづま	軽運動室の無料開放	震災後、子どもたちの健全育成や体力増進を応援するため、小学生以下を対象に、本来有料施設である軽運動室の無料開放を継続して実施。利用者数（21,644名）。
	月会員・半年会員 サービス事業	期間内において1日2時間まで使用可能な会員サービスに取り組み各施設の利用推進を図った。 ① 体育館トレーニング室登録者数（延べ） ・月会員615名（一般244名、生徒等2名、シルバー369名） ・半年会員72名（一般21名、シルバー51名） ② 陸上競技場トレーニング室登録者数（延べ） ・月会員100名（一般78名、シルバー22名） ・半年会員0名（一般0名）

場 所	事 業 名	内 容
あづま	月会員・半年会員 サービス事業	③ 体育館室内プール登録者数（延べ） ・月会員 487 名（一般 184 名、シルバー303 名） ・半年会員 59 名（一般 19 名、シルバー40 名）
	体育館トレーニング室初回 限定月会員サービス	体育館トレーニング室の初回説明受講者に対し上記月 会員の有効期限を 20 日加えた 50 日間有効のサービスを 提供し、トレーニング室利用の継続を促し、健康づくり に寄与した。（39 名）
	庭球場の夏季週末早朝営業	6 月～8 月の気温が高い時期において、早朝の涼しい時 間帯でテニスを楽しんでもらう取り組みを通して庭球 場の利用推進を図った。 6 月 6 回 321 名 7 月 3 回 129 名 8 月 7 回 544 名 計 994 名
	シニア世代を対象とした運 動習慣化促進への取り組み 【新規】	ウォーキングを運動習慣として定着させるきっかけづ くりとすることをテーマに、「浜ちゃん流楽しく歩こう 健康ウォーキング」と題した講演イベント（10/4 95 名） と公園ウォーキング教室（再掲）（10/10（20 名）、11/14 （18 名）、12/12（18 名））を開催した。
	庭球場ポイント制度の実施	ポイントカード登録者数 205 名（延べ） （一般 158 名、生徒等 47 名） サービス券配布枚数 240 枚 （一般 160 枚、生徒 80 枚）

（４）その他の事業

１）文化伝承事業

七夕、風鈴やハロウィン、クリスマスなど、季節にふさわしい室内展示や生活・
文化を伝承する通年の行事を開催した。

場 所	事 業 名	内 容
あづま	季節感を創出する伝統文化の 展示	季節に合わせ、七夕飾りと風鈴、お月見、ク リスマス飾り、団子さしかざり、おひなさま を体育館ホールなどに展示。

場 所	事 業 名	内 容
空 港	季節の伝統行事の展示	七夕の短冊飾り、クリスマスツリー飾り、おひな様飾りの展示。
逢 瀬、 センター	季節の風物詩を公園に飾る取組	四季の移り変わりを感じさせる飾り付けを行った（鯉のぼり、七夕、風鈴の設置、ハロウィン飾り、クリスマスツリー展示、団子さし飾り）。
民家園	年中行事・体験行事・実演行事・ボランティアガイド	年中行事の再現、体験行事等の円滑な運営に努めた。
	全国のだるま展示会・絵付け体験	全国のだるま展示会と絵付け体験を実施した。
	お正月遊び体験	民家園を活用した昔ながらのお正月遊びを来園者に提供した。

2 都市公園並びにスポーツ・レクリエーション及び歴史・文化・自然に関わる施設の管理運営事業 【公益目的事業】

（１）指定管理施設

１） 指定管理者としての施設の維持管理業務

施設名	面積（㎡）	維持管理施設
あづま総合運動公園	88.2	総合体育館ほか有料施設 11施設
		巨石広場ほか無料施設 10施設 （クライミングウォールを含む。）
福島空港公園	52.1	庭球場ほか有料施設 4施設
		日本庭園ほか無料施設 9施設
逢瀬公園	17.3	桜の広場ほか無料施設 5施設
総合緑化センター	16.5	管理棟 1施設
		日本庭園ほか無料施設 17施設
福島市民家園	11.0	古民家 11施設
		展示館、管理棟、休憩棟 3施設

(2) 施設管理運営事業

【全公園共通】

1) 定期的な巡視

安全・安心な施設を提供するため、定期的な巡視を行うとともに、異状があった箇所については速やかに応急的な処置を行った。

2) 点検作業

適正な施設の維持管理の一貫として、点検作業を体系化し、着実に実施するとともに、遊具について日常管理、保守点検を行った。

3) 修繕計画

有資格の職員により施設点検を行い、更新などの修繕計画を作成し、県などの施設管理者に予算確保のための資料として提出した。

4) 災害等の対応

来園者の安全確保や不法行為の防止及び災害等の不測の事態に備えるために、避難誘導訓練や普通救命講習などを実施した。

5) 放射線量測定

園内各施設の放射線量を定期的に測定し、ホームページや掲示板への掲示により利用者に情報を提供した。

6) 受動喫煙防止の取組

子どもたちやタバコを吸わない人をタバコの煙から守るため、喫煙所にフェンスを設置するなど受動喫煙の防止に取り組んだ。

【あづま】

7) 利用者へのサービス

- ① 公園内の季節の見どころに可動式ベンチを設置した。
- ② 「ウェルカム広場」「あづまウェルカムボード」を適切に清掃等実施し、来園者の楽しみとくつろぎの場を提供した。
- ③ 大規模大会、イベント等の利用者からの求めに応じ、時間外利用にも柔軟に対応し大会等の円滑な運営に協力した。

8) 公園野良ネコの現状把握と対策

野良ネコの生息地や生息数を把握するため、一斉調査を計画的に実施するとともに、公園の捨て猫問題に取り組む関係者と、捨て猫の現状や里親さがしの状況について情報交換を行った。更に福島市保健所と現状把握と今後の対応策について協議を行った。

9) あづま総合運動公園燃料電池保安管理・PR 業務

水素燃料電池保安管理・PR 事業を受託し、水素燃料電池システムによる発電施設の管理と PR 事業を進めた。

- ① 水素利活用発信 ・・・・水素燃料電池 PR のためのパネル展示と館内放送及び遠隔監視業務
- ② 水素設備点検 ・・・・ 高圧ガス保安法定期点検業務
- ③ 各種点検及び燃料電池 PR ・・・・ 日常点検、施設案内

【空港】

10) 福島広場の適切な管理

福島県を形取ったタイル舗装は起伏を伴う特徴があるため、日常点検による安全性の確保と景観の保持に努めた。

【逢瀬、センター】

11) 園内案内看板の見直し改修

古くなった案内板などを現状にあった内容に改訂し、新たに看板を設置した。

【センター】

12) 日本庭園の池の水質浄化と滝の流れ

水質の浄化を目的に池の清掃を行うとともに、滝の水を定期的に流すなど、景観の維持に努めた。

【民家園】

13) 古民家等の適切な管理

次世代に確実に引き継いでいくため、貴重な古民家及び民俗資料の適切な管理に努めた。

(3) 緑地管理事業

【全公園共通】

- ① 各植物の特性、景観性に配慮した植栽管理に努めた。
- ② 自然環境に配慮した植生管理、景観性に配慮した植栽管理に努めた。

【あづま、空港、逢瀬、センター】

- ③ 生育状況や利用に応じた適切な芝生管理に努めた。
- ④ 季節毎に楽しめる草花管理、自然美に配慮した下草管理、意匠性と自然美を合わせた植栽管理に努めた。
- ⑤ 樹木の枯れ枝などを巡視で発見し剪定を迅速に行った。

【空港、逢瀬、センター】

- ⑥ 日本庭園において樹木の生態に合った剪定や雪吊りなど日本らしさ、郷土性、季節感の感じられる緑地管理に努めた。

【あづま】

⑦ とうほう・みんなのスタジアムの芝グラウンドにおいてプロスポーツ利用に配慮した芝生補修を迅速に行った。

【空港】

⑧ 復興のシンボル「はるか」を植樹した福島広場の植栽地の管理を適切に行った。

【センター】

⑨ 本館前におもてなし花壇を整備し、育成管理を行った。

（４）有料施設管理事業

有料施設の適正な利用受付や調整を行うことにより、公平・公正な貸出業務に努めた。（あづま、空港、センター）

（５）指定管理施設の利用者数

あづま総合運動公園では、プロスポーツリーグの利用（プロ野球、サッカーJ3、バレーボール）や東北地区や県の中高生の各種競技スポーツ大会（東北高校陸上）、園地を利用したイベント（あづま香りのバラ園まつり、L I V E A Z U M A）等が数多く開催された。利用者数は、有料公園施設並びに無料施設ともに前年度を上回った。

有料公園施設の全体の利用者数は前年度と比べ約3.2万人増（野球場：約1.9万人増、とうほう・みんなのスタジアム：約1.6万人増、体育館：約0.3万人減等）、無料施設では、約0.8万人増となった。その結果、前年度比約2.3%増（約3万2千人増）の1,432,388人となった。

福島空港公園では、新規事業として「空港公園桜まつり」を開催したほか「Y O S A K O I 祭り2024」、「第17回空のみちウォーク2024」、「福島空港公園handmademarket ソライチ」等のイベントを実施し賑わいを創出した。「第18回福島空港公園杯グラウンドゴルフ大会」、「第18回福島空港公園杯少年フットサル大会」などの競技会では、選手、役員のほか観戦者も多く来場した。また、エアフロントエリア及び野外活動エリアにおいて、幼稚園、小学校等の遠足やウォーキングなどの健康づくり、家族単位等での散策や各種スポーツ大会等も数多く実施され、前年度比で約2.5%増（約1万3千人増）の過去最高の利用者数554,132人となった。

逢瀬公園・福島県総合緑化センターでは、地域関係団体との連携による「逢瀬公園春まつり」、「逢瀬公園感謝祭・秋」等の大規模イベントを実施した。また、「公園で楽しむカルチャー教室」、「ハーブ園を活用したハーブ教室」、「みどりの総合講座」として、年間計30回の講座・教室を開催するとともに、今年度立ち上げた「サボテン園ガイドツアー」では、サボテン園の施設案内や、サボテンの育て方についてのアドバイス等を行った。

今年度末の入園者数は、１０月からの２か月間にわたる給水設備の故障による断水や、冬季の積雪の影響を受けたことにより、前年度比で約７％減（約１．３万人減）の１６９，２０５人となった。

福島市民家園では、広瀬座再整備工事に伴う広瀬座口閉鎖や井戸工事に伴うトイレの使用制限の影響等により、前年度比で約１７％減（約９千人減）の４６，２３５人となった。

指定管理施設全体では、前年度比で約１．１％増（約２万３千人増）の２，２０１，９６０人となった。

（単位：人）

公園名	H 3 0	R 元	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6
あづま	1,786,897	1,670,180	963,555	954,520	1,456,806	1,400,144	102.3%
							32,244
							1,432,388
空 港	530,967	524,424	428,480	467,382	487,726	540,835	102.5%
							13,297
							554,132
逢瀬、センター	153,633	182,717	196,853	176,871	222,707	182,127	92.9%
							-12,922
							169,205
福島市民家園	35,875	33,228	51,566	48,145	58,666	55,438	83.4%
							-9,203
							46,235
合計	2,507,372	2,410,549	1,640,454	1,646,918	2,225,905	2,178,544	101.1%
							23,416
							2,201,960

●令和２、３年度の利用者数実績については、コロナ禍による特殊事情が影響している。

※R 6 欄は、上段：R 6／R 5、中段：R 6－R 5、下段：R 6 実績数

３ 都市公園等に関する情報の収集、広報、調査研究及び利用促進並びに地域づくりに関する事業【公益目的事業】

（１）都市公園等の情報収集事業

【全公園共通】

- ① 公園管理運営に対する満足度を調査するためのアンケートを意見箱などで収集した。（計１９６件（苦情１４件、要望６５件、評価６８件、その他４９件）

【あづま】

- ② イベント・教室開催時に公園利用者へのアンケート調査を実施した。結果を分析し、分析結果を今後の事業計画に反映することとしている。(あづま 計 497 件(夕焼けパークマラソン(175 件)、あづまの郷ウォーク(229 件)、シニア運動習慣(10/4(73 件)、12/11(20 件))
- ③ 大会開催時等に利用団体等から施設や運営についての情報収集を行った。
- ④ 他の類似公園の管理運営情報の収集を行った。

(2) 都市公園等の広報事業

【全公園共通】

- ① マスメディアを活用した広報活動を積極的に展開した。
- ② スポーツ団体、学校、各種団体等に対し施設利用誘致活動の推進に努めた。
- ③ 協会発行の広報誌配布による県民への情報提供を行い、利用促進に努めた。
- ④ 各施設の現況や大会、イベントの開催状況などの情報を充実させたホームページをほぼ毎日更新した。
- ⑤ きめ細やかな公園の四季の発信として、X(旧ツイッター)やInstagram等を活用したリアルタイムな情報の提供・交換や、混雑時の駐車場の空き状況の情報をきめ細やかに発信した。
- ⑥ 公園で開催される大会やイベント内容を園内掲示板へ掲示し、情報提供を行った。また、公園に対する意見・要望への回答を園内掲示板へ掲示した。

【あづま、逢瀬、センター、民家園】

- ⑦ 園内で見られる花を図鑑として作成し、これを花の時期に掲示することにより、みどりの普及・啓発に努めた。
- ⑧ 植物学習の場を提供するため、園内の植物名板の充実を図った。

【あづま】

- ⑨ 公園スタッフが伝えたい見どころを、公式ユーチューブで発信するなど、公園プロモーション活動に取り組んだ。
- ⑩ ホームページで園内開花状況などの情報を随時提供するとともに、公園の魅力が伝わる撮影スポットを SNS で発信した。
- ⑪ 電光掲示板やデジタルサイネージを活用し、リアルタイムに情報を提供した。

【逢瀬、センター】

- ⑫ 利用者からの要望に対する回答や公園の情報を発信する「公園情報コーナー」を休憩所に設置した。

(3) 都市公園等の調査研究事業

① 類似団体調査

先進地類似施設調査は、秋田県立中央公園、富山県総合運動公園のほか6施設について情報収集や視察を行った。

② 各種協議会等への参加

グリーンエージ都市環境緑化フォーラム、東北スポーツ施設研究協議会等に参加し、公園やスポーツ施設についての情報交換等を行った。

③ 情報交換会の実施

県内4市及び県、公園管理団体等情報交換会を1月に開催し、情報交換を行った。

④ みんなの公園づくりセミナーの開催【新規】

全国各地の公園での先進的な事例、公園に関係した様々な話題や取り組み等について、その分野に精通した専門家を招き、県内の公園関係者や県民と共に学ぶ「誰もが一緒に遊べるインクルーシブ公園って何？」をテーマにセミナーを開催した。
(参加者数30人)

(4) 都市公園等の利用促進事業

1) 施設の特性を活かした事業の推進

【全公園共通】

- ① ボランティアの協力をいただきながら、公園案内、スポーツ指導、イベント補助、年中行事の伝承などを行った。
- ② 学校や幼稚園等の遠足・見学等を随時受け入れた。なお、雨天の際には休憩の場として、屋内施設を提供した。

【あづま、空港、逢瀬、センター】

- ③ コース案内看板の修繕により、園内ウォーキングコース、ジョギングコースの適正な管理に努めた。
- ④ みどりのボランティア、みどりのサポーター、あづまバラ愛好会、うつくしま園芸福祉の会、福島空港公園ボランティアの育成を図るとともに活動の場を提供した。

【あづま、空港】

- ⑤ 次の有料施設を個人利用者に無料開放する「個人利用サービスデー」を実施した。

ア あづま総合運動公園庭球場、あづま総合体育館プール・トレーニング室、とうほうみんなのスタジアムトレーニング室を対象とし8月18日に実施。利用者数は577名。

イ 福島空港公園(4月～10月の月1回) ※お客様感謝デーとして実施
庭球場。利用者数は19名。

【あづま、逢瀬、センター】

- ⑥ サクラやイチョウなどの公園資源を活用したライトアップを開催し、公園の魅力を発信した。

【あづま】

- ⑦ イチョウ並木のライトアップに併せてイチョウ並木の賑わい創出事業を実施し、売店、BGMなど趣向を凝らし利用者へ新たなサービスを提供した。

- ⑧ 軽運動室を引き続き無料開放した。また、あづま絵本ぶんこを運営した。
- ⑨ 庭球場において、利用者ニーズを踏まえ、夏の涼しい時間帯（6時～9時）に利用していただく「夏季週末早朝営業」に取り組んだ。6月から8月の土日、16日間で994名の利用があった。
- ⑩ とうほう・みんなのスタジアムの芝グラウンドにおいて、プロスポーツ利用（3月～11月）に対応するため、芝生の養生管理に努めた。
- ⑪ カルチャー教室や健康づくり教室の開催、シニアスポーツ相談室、スポーツ教室共催等、NPO法人あづまスポーツクラブの支援を行った。
- ⑫ ヤマユリ群生地を保全を図るとともに、アジサイ園、シャクナゲ園、バラ園の植物園としての適切な管理に努めた。
- ⑬ バラの愛好者が集い、公園内のバラ園を活用して栽培技術などを学ぶ「あづまバラ愛好会」の活動を支援した。
- ⑭ 公園の特色を活かしたイベントを開催することで、公園の四季を身近に感じていただくとともに、各種植物園（円形花壇、香りのバラ園、ヤマユリ園、アジサイ園）の魅力を発信した。
- ⑮ 体育館トレーニング室、室内プール、陸上競技場トレーニング室の利用に応じたポイントを付与し、レストラン松月及び福島市民家園カフェむろいしで利用できる900円食事券と交換できるサービス「健康づくりでクーポンゲット」を提供し、冬季の利用促進に努めた。
- ⑯ シニア世代を対象とした運動習慣化への取り組みとして、FTV アナウンサーの浜中順子氏を講師にウォーキングイベントを実施した（新規）。

【空港】

- ⑰ 福島空港公園フットサルコートの特典サービス（年間）
フットサルコートにおいて、10時間利用で1時間分無料の回数券を発行した。
- ⑱ 日本らしさと四季の演出、公園の新たな魅力の再発見を目的に、日本庭園マツの雪吊りを実施した。
- ⑲ 健康増進のため、利用者からの要望に応え卓球台を設置し、貸し出し（有料）を行った。

【逢瀬、センター】

- ⑳ ウォーキングを楽しむ利用者への更なる情報提供の強化として、逢瀬公園坂道健康ウォーキングマップを各所に配置した。
- ㉑ 園内利用におけるランニング愛好家の増加を踏まえ、新たにランニングコース周辺の安全な走行整備を行った。
- ㉒ 植物名板や各種解説板の増設を行い、施設の魅力アップを行った。
- ㉓ 公園資源を利用したニュースポーツとして、公園の豊かな自然の中で心身の健康増進を図るParkヨガを開催した。全13回（参加者105名）。
- ㉔ 坂道が主である公園の地形により、身体の不自由な方や高齢者の利用が制限さ

れることから、ユニバーサルデザインを意識して車両の乗り入れのルール設定を行い園内走行を許可した。

【センター】

- ②⑤ 条例で休館日となる第3日曜日を開館し、公園利用者の利便性向上を図った。
- ②⑥ 「おうせ茶屋」は公園利用者の利便性の向上と地域連携を目的に運営しており、郷土料理「キャベツ餅」の販売や地域食材を使った飲食サービスについて、広報等の支援を行った。

【民家園】

- ②⑦ 寄贈されたものを活用して「だるま展示会」を開催し、民家園の利用促進を図った。
- ②⑧ 公園利用者の利便性の向上を図る「にぎ和伊カフェむろいし」の運営に協力し、新たな魅力づくり、サービスの向上に努めた。

（５）都市公園等の地域づくり事業

福島商工会議所女性会に協力していただき、花苗の栽培や園内の花壇整備を行う「緑と花のあふれるまちづくり連携事業」など、地域の団体との協働による様々なイベントを開催するとともに、ボランティアの受入れや育成を通し、地域の活性化や地域づくりを担う人材等の育成に取り組んだ。

場 所	事 業 名
あづま	「中学ドリームアップ事業（職場体験活動）」の生徒受け入れ（市内各中学校）（再掲）
	地域密着型プロスポーツへの支援事業（再掲）
	ボランティアとの協働による公園づくり（再掲）
	あづまボランティアの活動（再掲）（4事業68名（延べ）参加）
	あづまバラ愛好会の活動（再掲）
	緑と花のあふれるまちづくり連携事業（再掲）
	いきいき交流通学合宿の受け入れ（再掲）（中止）
	歩こう秋のふくしまあづまの郷ウォーク2024（再掲）
	ウェルカム広場・ウェルカムボードの維持管理整備（再掲）
	イチョウ並木の賑わい創出事業【新規】（延べ34店出店、ライブ1件実施）（計画時「あづまで楽しむオータムデイ」を名称変更して実施）
空 港	第17回空のみちウォーク2024（再掲）
	YOSAKOI祭り（再掲）
	第3回空港公園ノルディックウォーキング大会
空 港	空港公園ボランティア活動

場 所	事 業 名
逢 瀬、 センター	地域の環境美化への協力（花いっぱい運動への花苗寄付）
	安積アルプス出逢いプロジェクトサポート事業
	地域の小学校サポート事業
	光のページェント
	逢瀬さくらの里サポート事業

4 緑化に関する普及指導、情報の収集及び調査研究に関する事業【公益目的事業】

（１）緑化推進の普及指導及び情報収集事業

１）公園資源を活用した緑化推進事業

① 公園資源を活用した「あづま香りのバラ園まつり」、公園の四季を彩るサクラ、イチヨウ等のライトアップは継続して開催した。

また、「公園の落ち葉プール」で使用した落ち葉を堆肥用として無料配布するとともに、香りのバラ園まつりの来場者に花苗の無料配布を実施し、緑化の推進に努めた。

場 所	事 業 名	実施日	参加者数
あづま	サクラ光のファンタジー	4/2～15	1,801 名
	あづまバラ愛好会の活動（再掲）	4/5～2 月末	1,366 名
	みどりのボランティアの活動	4/11～2 月	130 名
	みどりのサポーターの活動	6/3～12 月末	88 名
	あづま「香りのバラ園まつり」	6/1、2	10,267 名
	あづま香りのバラ園まつり花苗配布	6/1、2	500 名
	緑と花のあふれるまちづくり連携事業	7/26～11/15	34 名
	イチヨウ光のプロムナード	10/23～11/10	7,631 名
空 港	花のおもてなし（再掲）	4/4、19、25、6/13、 8/22、9/5、12、 10/10	84 名
	さつま芋づくり体験（再掲）	5/18、10/19	60 名
	グリーンカーテン事業	5 月～10 月	—
	桜を観る会	4/7	6 名

場 所	事 業 名	実施日	参加者数
逢 瀬、 センター	みどり資源を活用した各種展示	通年	—
	みどりの日記念花苗無料配布	5/4	350 名
	きのこを通して森を学ぶ講座	7/28、9/29	33 名
	公園で自然環境を学ぶ教室・体験会（再掲）	8/10、11/9	11 名
	緑化の推進と普及のための各種物品販売	通年	—
	サボテン園ガイドツアー（新規）	5/21、6/13、7/7	26 名
民家園	縁側の山野草展（再掲）	6/8、9	929 名
	植物見頃情報板及び花図鑑の設置	通年	—
	水芭蕉やクマガイソウの増殖による新たな名所づくり	4 月～8 月	—

② 緑化に関する知識の向上を目的に、家庭園芸の基礎を学ぶ各種教室や自然とふれあう体験教室を開催し、緑化の普及に努めた。

場 所	事 業 名	実施日	参加者数
あづま	子どもみどりの遊び場（再掲）	5/12、7/15、11/10、1/26	34 名
	みどりの学び場（再掲）	5/19、6/5、6/20、7/15、12/20、3/7	108 名
空 港	自然塾（再掲）	5/19、7/28、9/22、11/17、12/8、1/12	38 名
	樹木医が教える庭木の健康管理	6/16、11/24	31 名
	空港公園みどりの楽校	10/24、1/24	19 名
	花とみどりの教室（再掲）	5/17、6/21、7/19、8/23、9/13、10/25、11/22、12/13、1/17	240 名

場 所	事 業 名	実施日	参加者数
逢 瀬、 センター	ハーブ園を活用した企画（ハーブ教室）	4/17、5/15、6/19、7/17、 8/21、9/25、10/16（断水のため中止）、11/20、12/18、 1/15、2/19、3/19	166 名
	みどりの総合講座（再掲）	4/13、5/17、5/18、6/22、 6/25、7/5、8/24、9/7、 10/5（断水のため中止）、 11/16、11/30、12/15、 1/21、3/15	128 名
	四季を通してバラとふれあう講座	5/23、6/20、11/14	36 名
	きのこを通して森を学ぶ講座（再掲）	7/28、9/29	33 名
	サボテン園ガイドツアー（再掲）	5/21、6/13、7/7	26 名

２） 職員が有する能力及び資格を活用した緑の普及指導事業

みどりの専門分野の知識・能力を活用したガーデニング教室、園芸教室等の教室や講座を開催し、みどりの普及啓発に努めた。

場 所	事 業 名	内 容
あづま	みどりの学び場（再掲）	全 6 回のうち 1 回（7/1 ラベンダー刈り取りとスティック作り）。
	みどりの遊び場（再掲）	全 4 回のうち 1 回（1/26 万華鏡づくり）
空 港	花とみどりの教室（再掲）	家庭での庭づくりやガーデニングの基礎知識を公園から伝えることを目的に講座を開催。9 回、参加者数 240 名。
逢 瀬、 センター	芝刈で大地に描こう！体験会	河内小学校の授業と連携した芝刈り体験を行った。6/7 参加者 8 名。
	サボテン園ガイドツアー（再掲）	サボテン園の魅力を伝えるため、サボテン園の施設案内や、育て方教室を行った。5/21、6/13、7/7 参加者 26 名

3) その他の事業

① 「みどりの相談所」等の常設

「みどりの相談所」等をあづま総合運動公園と空港公園に常設して、一般県民及び市町村、団体から庭木や草花の病害虫の診断や防除指導等、みどりに関する疑問や質問等の相談を有資格者が受け対応した。

・ 樹種選定・ 特性	9 件
・ 栽培・ 増殖	5 8 件
・ 育成管理	5 2 0 件
・ 樹勢診断・ 治療処方	3, 0 1 2 件
・ 病害虫	6 1 件
・ その他	1 2 3 件
合 計	3, 7 8 3 件
[うち、相談室内アドバイス	2 2 9 件
出張アドバイス	3, 5 5 4 件

② 「みどりの相談室」の設置

逢瀬公園・緑化センターでは、引き続き「みどりの相談室」を設置し、41人からの相談に対応した。

4) 情報収集事業

みどりに関する季刊誌や県外の公園情報誌等で情報収集を行った。

(2) 緑化推進の調査研究事業

1) リサイクル事業

【あづま】

① 剪定枝や松くい虫被害木はチップパーにより減容化し、堆肥製造装置により堆肥化するとともに、花壇の土壌改良材として利用した。

【あづま、空港、逢瀬、センター】

② 落葉樹を主とした落ち葉は分別収集し、来年度の花壇用堆肥として再利用するため積み置き保管した。

【空港、逢瀬、センター】

③ 剪定枝はチップパーにより減容化し、処分施設内に保管した。

2) 生態系に配慮した事業

【あづま、空港、逢瀬、センター】

公園内の自然環境を踏まえて、生態系に配慮した緑地管理を実施した。

3) 公園みどり守事業【新規】

【あづま】

あづま総合運動公園のシンボリックな樹木であるケヤキやサクラとイチョウ並木を中心に、衰退した樹木の樹勢回復を実施した。(1～3月)

4) 樹木の樹勢回復への取組

【逢瀬、センター】

公園内の衰退した樹木について、土壌改良による樹勢回復を実施した。

5 その他、この法人の目的を達成するために必要な事業【収益事業】

(1) 都市公園の管理運営のうち、興行に類するものへの貸出に関する事業

1) 興行に類するものへの貸出状況

① J 3 福島ユナイテッドFC ホームゲーム

2024 シーズン (4/10・21・28、5/6、6/2・23、7/7・20、8/17・31、9/15・29、
10/6・27、11/17) 計 15 試合 27,446 人 (平均 1,830 人)

2025 シーズン (3/8、3/16 (中止。代替日 4/23)、3/30)
計 3 試合 3,692 人 (平均 1,846 人)

ルヴァンカップ (2025) (3/26) 計 1 試合 945 人

合計 19 試合 32,083 人 (平均 1,689 人) ※中止した 3/16 の観客 400 人除く。

② プロ野球セ・パ交流戦

「楽天ゴールデンイーグルス対東京ヤクルトスワローズ」(5/31 12,223 人)

③ ルートインBCリーグ

「福島レッドホープス対福岡ソフトバンクホークスファーム」
(6/14・15・16 計 3 試合、合計 1,029 人)

④ B. LEAGUE 公式戦 2024-25 シーズン 福島ファイヤーボンズホームゲーム

(10/12・13、11/2・3、12/7・8、3/8・9 計 8 試合、合計 17,931 人)

⑤ LIVE AZUMA 2024 (10/19・20 2日間合計 26,000 人)

⑥ SV リーグ公式戦 2024-25 シーズン

「デンソーエアービーズ対 SAGA 久光スプリングス」(11/23・24 計 2 試合
合計 2,221 人)

(2) 緑化の推進に関する樹木等調査、緑地造成及び緑地管理の受託事業

1) 緑化の推進に関する樹木等調査事業

① 街路樹、緑の文化財等の樹勢診断調査及び保全対策の設計、施工 令和6年度指定天然記念物定期診断業務(郡山市)

工期: R6.6.18～R 7.1.31

② 樹木調査診断業務委託（その1）（双葉町）

工期：R 6.6.6～R 6.11.20

③ 令和6年度里山の名木・鎮守の森診断業務（福島県）

工期：R 6.4.26～R 7.3.18

④ 旧本郷第一小学校跡地メタセコイヤ樹木診断業務委託（会津美里町）

工期：R 6.11.25～R 7.3.31

2）緑地管理事業

① 福島県立医科大学の緑地管理

福島県立医科大学緑地保全管理業務（公立大学法人福島県立医科大学）

工期：R 6.4.1～R 7.3.31

（3）利用者への利便性供与を目的とする物品販売等に関する事業

1）売店等の設置

あづまに1箇所のレストラン、民家園に1箇所のカフェ及び空港に2箇所の常設売店を設置し、利用者への利便性向上に努めた。

また、センターの売店「おうせ茶屋」は4月から11月にかけて営業し、利用者の利便性の向上と地域連携に努めた。

スポーツ大会、イベント開催時の臨時売店の設置

	臨時売店
あづま	延べ（1,656店）
空 港	延べ（496店）
逢瀬・センター	延べ（119店）
民 家 園	延べ（4店）

2）自動販売機の設置

	飲料水	飲食物
あづま	39台	6台
空 港	6台	1台
センター	2台	—

3）スポーツ用品の販売、運動靴の貸出し（あづま、空港）

卓球ボールやバドミントンのシャトル、テニスボール等のスポーツ用品を販売した。

Ⅲ 役員等に関する事項

1 理事、監事の状況

役 職	期 首 氏 名	変更事由等	補充選任等	変更事由等 (令和7年3月 31日)	(参考) 補充選任 (令和7年4月1日)
			氏 名		氏 名
理 事	猪 股 慶 藏				
理 事	須 金 泰 一				
理 事	渡 辺 良 夫				
理 事	菅 家 礼 子				
理 事	穂 本 哲 哉			辞任による	飯塚 悟
理 事	齋 藤 善 也			辞任による	今野 奈穂子
理 事	大 竹 和 彦			辞任による	和知 聡
理 事	平 野 尚 巳				
理 事	壺 岐 ひろみ				
理 事	伊 達 孝 浩				
監 事	鈴 木 和 郎				
監 事	小 松 利 顕				

2 評議員の状況

役 職	期 首 氏 名	変更事由等	補充選任等	変更事由等 (令和7年3 月31日)	(参考) 補充選任 (令和7年4月1日)
			氏 名		氏 名
評議員	須 藤 康 子				
評議員	貝 羽 敦 司			辞任による	有 我 兼 一
評議員	小 川 宏				
評議員	森 雅 彦			辞任による	紺 野 文 康
評議員	佐 藤 みゆき			辞任による	丹 治 貴 子
評議員	飯 沼 隆 宏				
評議員	齋 藤 俊 藏				
評議員	新 谷 崇 一				
評議員	高 橋 和 司			辞任による	渡 邊 重 勝
評議員	鈴 木 智				

3 常勤役員の異動状況

なし

4 常勤役員の兼職状況

兼 職 名	兼 職 者
(公社)福島県森林・林業・緑化協会理事	理事長 猪 股 慶 藏
(公財)福島県スポーツ振興基金理事	〃
福島県体育施設協会会長	〃
(公財)日本スポーツ施設協会評議員	〃
(一財)ふくしま市町村支援機構評議員	〃

5 理事会及び評議員会の開催状況

開催月日	提 出 議 題
第1回理事会 令和6年5月29日 杉妻会館 出席理事 8名 出席監事 1名	議案第1号 令和5年度事業報告及び附属明細書について 議案第2号 令和5年度決算に係る財務諸表及び附属明細書について 議案第3号 令和6年度第1回評議員会の招集（案）について
第1回評議員会 令和6年6月17日 杉妻会館 出席評議員 10名 出席監事 2名	報告事項1 令和5年度事業報告及び附属明細書について 議案第1号 令和5年度決算に係る財務諸表及び附属明細書について
第2回理事会 令和7年1月23日 杉妻会館 出席理事 8名 出席監事 1名	報告事項 令和6年度職務執行状況報告について 議案第1号 令和6年度補正予算（案）について 議案第2号 令和7年度事業計画（案）について 議案第3号 令和7年度収支予算（案）について 議案第4号 令和6年度第2回評議員会の招集（案）について

開催月日	提 出 議 題
第2回評議員会 令和7年2月5日 杉妻会館 出席評議員 9名 出席監事 2名	報告事項1 令和6年職務執行状況報告について 報告事項2 令和6年度補正予算について 報告事項3 令和7年度事業計画について 報告事項4 令和7年度収支予算について 議案第1号 公益財団法人福島県都市公園・緑化協会役員及び 評議員の報酬等並びに費用に関する規程の一部改 正（案）について
第3回理事会 令和7年3月24日 決議の省略による方法 同意理事 10名 同意監事 2名	議案第1号 令和6年度第3回評議員会の開催（案）について
第3回評議員会 令和7年3月31日 決議の省略による方法 同意評議員 10名	議案第1号 評議員の補充選任（案）について 議案第2号 理事の補充選任（案）について

IV 特記事項

なし

附属明細書について

令和6年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので附属明細書は作成しない。

令和7年3月

公益財団法人福島県都市公園・緑化協会